

わたしは、していいこと、
してはいけないことをきち
んと教わりたいのです。



くまもと家庭教育10か条 第3条

善悪の区別

教えよう事の善し悪し躰から

「子どもの躰を考える」についてのレポートから、
次の言葉について簡単に紹介します。

躰の目的

共同生活のルールやマナーを教え、社会生活に適
応させていく事。つまり「人の迷惑にならない、決
まりを破らない」態度を身につけさせること。

共感性

「人を傷つける事は悪いことだ」と理屈で教えるよ
りも、「傷つけられた人の気持ちになれる」共感性を
育てておくことが躰の前提となる。

観察学習（見て学ぶ）

自分の身近な人が、共感性を持って生活してい
る姿を見て、それを自分の行動の中に取り入れる。

見て学ぶ「子は親の鏡」。

見習う

親自身が小さな生き物の命を慈しみ、隣近所の不
幸に心を痛め、テレビなどで知る遠方の地の災害な
どに対しても、悲しみと同情をもつ姿を見せている
こと。親の姿を見て、子どもは自分の行動の中に取
り入れている。

親が自分に共感してくれているという経験

・乳児の頃、不快で泣いていれば、それを理解して
快適な状態にしてくれたという、信頼感の芽生え
・成長に従い、様々な形でぶつかる問題や悩みで、
つらい思いをしている自分の痛みを理解してもら
えたという満足感。

くまもと家庭教育10か条 第4条

わたしは、みんな
に感謝していき
ています

「ありがとう」は 生きゆく心の出発点

感謝の心

日常の中で何気なく交わ
されている「ありがとう」の
言葉を大切にすることから、
子ども達に感謝の心が自然
に身についていきます。

人からの恩、ひいては自然
や自分を取り巻くすべての
ものへ「感謝」の心を持つこ
とによって、自分もすべての
ものへ優しくなれるのでは
ないでしょうか。

すべてに感謝する
つらいときも
苦しいときも
これが自分を大きくさせる
試験だと思えば
これほど強い心のささえは
ありません

須永博士

